【様式】

令和６年度　学校マネジメントシート

学校名（　三重県立桑名高等学校　）

1　目指す姿

<table>
<tr><td colspan="2">(1)目指す学校の姿</td><td>普通科、理数科、衛生看護科、衛生看護専攻科および定時制課程を設置する本校の特色を生かし、「桑名から　強くはばたく　人づくり」を目指します。
① 地域社会や保護者の多様なニーズに応えて、桑員を支える学校の債務を果たします。
② 課程、学科の特色を生かして、多様で魅力ある学校をつくります。
③ 長い歴史と伝統を強みとして、公教育への信頼を一層向上させます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(2)</td><td>育みたい資質・能力（育みたい生徒の姿）

【グラデュエーション・ポリシー】</td><td>① 困難に向き合い、自ら課題解決策を生み出し、地球の未来への先駆者となる生徒。
② 自己肯定感を持って主体的に学び続け、責任のある行動がとれる生徒。
③ 他者と共に支え合って生きていく力を身に付け、地域や社会に貢献できる生徒。</td></tr>
<tr><td>ありたい教職員の姿</td><td>目指す学校像の実現に向けて、互いに助け合い、学び合いながら笑顔を忘れずに教育実践できる教職員。</td></tr>
</table>

2　現状認識

<table>
<tr><td colspan="2">(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</td><td>＜生徒＞
学力向上・希望進路の実現・楽しい学校・充実した部活動
＜保護者＞
社会性・安心安全・学力向上・社会的自立・希望進路の実現・楽しめる学校・部活
動・一人ひとりを大切にする学校
＜地域社会＞
地域の誇りとなるリーダーシップや強調性を持つ人材育成や社会貢献･一層信頼できる学校</td></tr>
<tr><td>(2)連携する相手と連</td><td>連携する相手からの要望・期待</td><td>連携する相手への要望・期待</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">携するうえでの要望・期待</td><td>＜大学＞
知的好奇心やコミュニケーション能力の高い生徒の育成
＜中学校＞
特色の明確化、中学校への情報提供
＜教育産業＞
ニーズの明確化
＜保護者＞
学校の現状、方針等の情報提供と参画の機会
＜地域社会＞
地域活動への参加
＜病院等＞
地域医療への関心</td><td>＜大学＞
高大連携による情報提供

＜中学校＞
中高連携による意思疎通
＜教育産業＞
ニーズにあった情報提供
＜保護者＞
学校と連携した家庭教育

＜地域社会＞
地域の教育力の活用
＜病院等＞
学校との密接な連携</td></tr>
<tr><td colspan="2">(3)前年度の学校関係者評価など</td><td colspan="2">・　全日制には普通科、理数科、衛生看護科／衛生看護専攻科を有し、定時制も併設
しているなか、各課程、学科ともに年度当初の目標が概ね達成されている。今後は、教職員に過度な負担とならないよう留意、工夫しつつ各種取組等が継続されることを期待したい。
・　全日制の普通科、理数科については、大学入試は個々の生徒にとっての通過点であり、その先を見据えた指導を期待したい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(4) 現状と課題</td><td>教育活動</td><td colspan="2">＜全日制＞
・　普通科、理数科においては、授業やＳＳＨの諸活動、探究活動を通じて、生徒が
自己の実現に向けてより主体的に学ぶよう指導の工夫、改善が必要である。
・　衛生看護科、衛生看護専攻科においては、看護師に不可欠である社会人基礎力の育成と看護師国家試験合格に向けて知識、技能が定着するよう指導の工夫、改善が必要である。
・　生徒の個々の様子を適切に把握し、生徒が不登校に陥らないよう職員間、外部機関と連携するとともに担任等が１人で抱え込まないよう教育相談体制を充実させる。
＜定時制＞
・　全職員が生徒の抱える背景について理解し、常に情報共有することで、個に応じたよりよい指導を目指す。</td></tr>
<tr><td>学校運営等</td><td colspan="2">・　教職員の多忙解消に向けて、行事や各種取組、業務の精選と平準化・効率化に取り組む。
・　総勤務時間の縮減に向け、時間外労働時間の短縮や年次休暇等を取得しやすい環境の構築に努める。</td></tr>
</table>

3　中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・　生徒の自主的で深い学びを実現し、確かな学力の向上を図るため、教科指導の 充実とＩＣＴの活用を含めた授業改善を進める。 ・　入学から卒業までを見通した進路指導により、生徒の進路希望の実現を図ると ともに、勤労観や職業観を身につけるキャリア教育を体系的に推進する。 ・　他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心を育む教育の充実に努め、生徒の 豊かな人格形成に取り組む。
学校運営等	・　教職員の助け合い、教え合いの文化を育み、教職員が一丸となって取り組む組織ある学校づくりを推進する。 ・　学校、家庭、地域等との連携を強化し、本校の教育活動を広く地域に発信し、開 かれた学校づくりに努める。 ・　総勤務時間縮減に向けて業務を精選するとともにＩＣＴの活用を推進し、多忙化 解消に努める。 ・　一人ひとりの教職員の危機管理に対する意識を高めるとともに組織としての 危機管理を推進する。

4　求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・　将来の目標を定め、目的意識をもって学修に取り組むことを目指す生徒。 ・　何事にも興味関心をもち、積極的に新しい物事へ取り組もうとする生徒。

5　本年度の行動計画と評価

（1）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】　「※」　：　定期的に進捗を管理する取組　　「◎」　：　最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 教科指導の充実とＩＣＴなどの活用を含めた授業改善 重点② キャリア教育を体系的に推進 重点③ 豊かな人格形成	＜ＳＳＨ部＞ 地球の未来への先駆者となる科学技術人材の育成を目指します。（桑高ＳＧＰプログラム） 【活動指標】 ○ 学校設定科目「探究」および「研究」、「看護の統合と実 践」において、SDGｓの１７の目標に対し生徒が主体的に課題を設定し、課題研究に系統的に取り組む活動を実施します。年度末に１回（新入生は入学直後にも１回）生徒アンケートを実施します。	・ＳＤＧｓの１７の目標を念頭に置いた課題研究に取り組んだ。フィールドワーク等の校外での活動や放課後に後輩から先輩へ研究指導を受ける等、積極的に取り組む様子が見られた。 また、衛生看護専攻科１年生の「看護の統合と実践」と理数科２年生の「SS 医療と健康」との合同授業を実施し、専攻科の生徒が主体となり、理数科の生徒に指導する機会を設定した。	◎
	【成果指標】 ○ 「世の中のさまざまな事象について深く追求しようと する姿勢」、「他の人と協力して物事を解決する力の向上」等の生徒の主体性に係る部分をアンケート調査し、肯定的な意見の合計割合が７０％以上を目指します。	・生徒の主体性に係るアンケートについては、肯定的な意見の割合が、多くの項目で７０％を超え概ね目標を達成することができた。	
	＜理数科＞ 【活動指標】 ○ 文部科学省より指定を受けたＳＳＨ事業と連携し、ＩＣＴ を積極的に活用しながら、継続的な教科指導や課題研究活動、校内外での研修活動などへの取組を通して、理系キャリア教育の充実と様々な分野において社会に貢献できる人材の育成を図ります 。 【成果指標】 ○ 授業や校内外の研修における理数科生徒の満足度について、肯定的評価が ８０ ％以上になることを目指します。	・理数科合宿、秋の校外研修、三重大学講師による校内研修（２年）などの各研修アンケートにおける生徒満足度は、肯定的評価が 90％を超えた。 また課題研究への取り組みなどを通して、進路実現のための学力の伸長や理系キャリア教育の充実を図ることができた。	◎

	<1 学年> 【活動指標】 ○　面談やオリエンテーションを通じ、生活習慣と学習習慣 の定着を図ります。 ○　学年集会やガイダンス、実習を通じ、進路意識を育て自 らキャリアデザインをできるようにします。 ○　年度途中から提出物をなくし、自ら計画的に学習を進 められる生徒を育てます。 【成果指標】 ○　学習状況調査で平日２時間以上、休日４時間以上学習し ている生徒が、全体の５０％以上になることを目指します。 ○　適切な文理選択・科目選択ができているかを１１月の 進路協議会で確認します。 ○様々な実習で積極的に活動しているかを実習の様子 や日誌、レポートから評価します。 <2 学年> 【活動指標】 ○　定期考査や模試後に結果を分析し、学年集会や授業内などで生徒に還元して、復習・予習の重要性を理解させます。加えて、課外授業などにおいて、目的を精選し効率的な選択肢を与え、より自主的な学力育成を実感させます。また、タブレットを用いたオンライン模試などを利用し基本的学力の確認と充実を図ります。 ○　文理分かれて将来の目標が具体化される中、個人面談 を始めとした、様々ある進路の可能性を引き出すべく細やかな指導を行うことで、より深い進路実現への学習と、自主学習の推進を図ります。 ○　修学旅行を始めとした各学校行事において、生徒主	・学習時間が目標に達していない生徒が多い。今後、面談や集会を通じて学習習慣の確立を促していきたい。 ・文理選択、科目登録は面談を密に行い、保護者とも連絡をしっかりと取り合い、適切に行うことができた。 ・衛生看護科も実習に真剣に取り組むことができた。 ・おおむね達成できた。系統別に分かれた今年度も学習サイクルの基本的指針は示すことができた。 ・おおむね達成できたが、理系および学習教科に偏りがあるように思われる。 ・達成できた。自主的な行動および提案から実施まで滞りなく行えた。 ・学習時間そのものはとれているが、先述にもあるように教科の偏りは否めない。教科同士の擦り合わせはもう少し行うべきであった。 ・分析結果は端的に、授業内での振り返りと構成づくりはおおむね達成できている。英語の基本知識徹底については	◎ ◎

	体 となる活動を推進し、目的・目標を自分たちで設定して、積極的な運営活動を経験させます。 【成果指標】 ○　学習状況調査の結果を分析し、教科毎の学習状況を確 認する。（数学２：英語２：国語１の割合で最低限の学習時間及び学習量を確保しているか、バランス良い学習スタイルの確立を引き続き定着させます。特に夏以降は平日２時間半休日５時間が指標。） ○　実施した考査の分析結果、および受験した模試結果・ データを十二分に生かした課外授業と授業内還元を実施し、数少ない試験形式の問題対策から、日常の予習復習の重要性を説き、入試の７割が基本問題であることの重要性を改めて認識させます。 ○主たる修学旅行のコース設定、校外研修の活動内容を自由に選択させることなど、選択の幅を広げることは勿論、生徒会活動に当学年が積極的に関わり刷新できるものについて、当世代ならではの内容にしていくように働きかけます。 ＜3 学年＞ 【活動指標】 ○　各教科担当・分掌と協力し、生徒の進路実現をサポートします。 ○　面談回数を増やし、学年集会や進路ガイダンスを定期的に行い、進路意識を高めます。 ○　定期考査・模試などの成績分析を行い、授業や課外」の指導に反映します。 ○　衛生看護科は臨地実習の事前・事後の指導を計画的に行い、進路実現につなげます。 【成果指標】 ○　国公立大学の合格者が４割以上を目指します。 ○　臨地実習の取り組み方や日誌・レポートの提出状況などから進路意識を確認します。	やや不安あり。 ・教職員の業務内容は現状の生徒の様子を鑑み大きく縮減できた。また、時間を少しでも有効に使えるように、ほとんどの時間を生徒企画とし、独自企画も開催できたので良かった。 ・おおむね達成できた。 ・達成できた。行事日程以外にも随時行えた。 ・分析は達成できた。指導はおおむね反映できたが、成果となると難しい面もある。 ・おおむね達成できた。 ・最後の結果まではまだ不明であるが達成できる予想である。 ・おおむね達成できた。 ・社会変化に伴っての課題も増えてきている状況であるが、社会情勢を目の当たりにしての課題に取り組むことができた。外部講師の方々の講義においても着眼点が明確で視野拡大へとつながった。 ・５年一貫教育で求められるもの、教育的配慮を要する生徒への対応については課題を残している。一人一人に向き合うこと、家庭との連携等	◎

	＜衛生看護科＞ 【活動指標】 ○　各科目において、それぞれの角度から思考力や判断力を養い、5年間を通してモチベーションが保てる看護師の育成を目指します。 ○　看護師としての社会人基礎力を養うために、社会情勢に目を向け、関心を持って学ぶ姿勢を養います。 ○　自主的、主体的な学習習慣を確立し、学び続ける姿勢を育て学力の向上・定着を図ります。 【成果指標】 ○　日常から思考や判断プロセスを問うような学習課題を提示し、単純想起型の知識から、自らの思考の基で判断する機会を各科目から体験します。 ○　産業教育における事業、臨地実習施設行事、ボランティア行事等、積極的に参加し、現場体験に基づく気づき等を大切にします。 ○　専門領域の充実と、職業観育成のために校外学習や外部講師を通じて、キャリア教育の充実を図ります。	が一層求められる。 ・5月と1月に2回設定。いずれもこのうち1回の午後は保護者等に向けた公開も行った。 ・指標を十分に達成することができた。 ・教科や担任通して十分周知できた。	◎
	＜教務部＞ 【活動指標】 ○　教員間における「授業公開週間」を年2回設定し、相互 に意見交換することにより授業力向上を図ります。教材観やＩＣＴ活用事例の意見交換など、教員としての経験年数に関わらず互いに切磋琢磨できるような環境	・全校生徒を対象にテーマ「性と人権を考える」というテーマで講演会を実施した。性の正しい理解と人権を守ることとの関係について学び、今後の生活につながる新たな気づきを得ることができたという生徒も多くいた。満足度は95%であった。 ・人権ホームルームでは、3学年は「統一応募用紙」、1・2学年は「部落差別」をテーマに自分の問題としてと	◎

	作りに取り組みます。 ○　事前にわかっている不在の場合は、授業担当者の計画に応じて極力授業の振替等を行い、授業時間の確保に努めます。また、急な変更の場合は当該教科・学年と連携して迅速に対応します。 ○　観点別評価の位置づけについて、正しく理解を得られるように、生徒や保護者に対して事前に丁寧に説明します。 【成果指標】 ○　振替の要望に対する達成率９０％以上を目指します。	らえ、解決のための行動を主体的に考え、グループワークを中心に交流した。満足度は、 3学年　97.7％、 2学年　９９．２％、 １学年　９３．９％ ・「ルシル通信」（人権だより）を第5号まで発行し、3月には第6号を発行予定である。	
	＜総務部（人権）＞ 【活動指標】 ○　人権便りを年5回以上発行し、人権講演会や人権ホームルー ム（HR）の実施を通して以下のように取り組みます。 ①　差別に気づく豊かな心を育みます。 ②　人権問題を仲間と共に学び、互いの気持ちを理解し合い、 認め合えるようにします。 ③　問題解決やよりよい方向を目指して、協調性と積極性を持って取り組みます。 【成果指標】 ○　人権講演会・人権 HR 後の感想・アンケートにおいて肯定 的な意見・感想など９５％以上を目指します。	・毎朝の校門指導は実施できたが、遅刻の数は、昨年度を上回った。 ・交通安全講話から、生徒の交通安全に関する意識は高まったが、自転車事故も複数件発生した。 ・セーフティ・バイシクルリーダーの活動として、夏、秋、冬の交通安全週間に、ヘルメット着用励行の啓発運動を実施し、着用率も上昇した。 ・隔月に「Formal Wee k」を実施し、挨拶をする生徒が増え、身だしなみに関する意識も高まっている。 ・各学期末に「仲間との関わりアンケート」を実施し、いじめの早期発見に努めた。いじめの認知が３件あり、継	◎

	＜生徒指導部＞ 【活動指標】 ○　基本的習慣が身につくよう毎朝10分間、校門及び北門にて遅刻指導・服装指導を行います。 ○　毎朝、登校指導を行い、交通事故防止や交通ルールを遵守する指導を行います。また、「交通安全講話」を開催し、交通事故防止に対する意識を高めます。 ○　「セーフティ・バイシクルリーダー」活動から、ヘルメッ ト着用の励行を図ります。 ○　挨拶の励行、身だしなみを整える「Formal Wee k」を隔月に１週間実施し、品格を備えた桑高生を育みます。また、年３回全職員体制で頭髪服装指導を実施し、身だしなみを整える指導を行います。 ○　新制服に完全移行し、多様なスタイルが選択できるよ うになっているため、「着こなしセミナー」を実施し、制	続的な見守りを必要としている。 ・生徒が自らのキャリアを考え進路決定を行い、挑戦する志を育てるべく、名古屋大学学部別講座、名古屋市立大薬学特別講義、看護キャリア講座（三重県立看護大）、京大見学会、東大ツアー(３月予定)を実施した。 　また、１年生全員対象に５月には進路キャリア講演会、10月には三重大学の学部説明会を実施した。 ・新課程入試に関する情報は適宜、集会や保護者会で情報提供した。また１・２年対象進路保護者会では詳細な説明を駿台予備校から講演していただいた。 「名大チャレンジサポート」も約80名を対象に実施した。 ・現時点では、共通テストを課さない学校推薦型選抜入試で、国公立大学５名合格。今後、共通テストを課す選抜入試、一般入試を多く受験するので、その成果を待ちたい。	◎

	服の着崩しがないよう、意識の向上を図ります。 ○　各学期末にいじめや仲間との関わりに関するアンケートを実施し、いじめ防止や早期発見に向けた取り組みを行います。 【成果指標】 ○　おおよその生徒が、朝のあいさつを交わすことを目指します。 ○　遅刻生徒数 対前年度比10%減を目指します。 ○　ヘルメット着用率50%を目指します。 ○　安心して学習できている生徒の割合90%を目指します。	・昨年度と比べ体調不良にもかかわらず、登校してくる生徒は少なくなり、各自の健康管理が出来ていたように思える。 カウンセリングが必要な生徒に対しては、担任・学年・関係教員との連携を密にし、早期対応によるスクールカウンセラー等の面談を的確に実施することができた。 その他に関しては概ね達成することが出来た。	※◎
	＜進路指導部＞ ○　キャリア教育の推進とともに、生徒の進路希望の実現 を図ります。 ○　生徒の進路決定に必要な情報や実践活動を適時提供します。 【活動指標】 ○　生徒がキャリアデザイン力を高め進路を考える機会と して、校内大学説明会、大学教員による講演会、大学見学会、進路ガイダンスを開催します。 ○　「進学の手引き」「進学だより」「進学ガイダンス」等を有 効に使い、受験情報の提供や意識高揚に努めます。 ○　生徒の難関国立１０大学進学をサポートするための	・生徒は落ち着いて授業に取り組んでいる。分からない所はすぐに授業者に質問し、生徒相互の学び合いの姿も見られる。 生徒間の学力差が大きいため、個に応じた指導で、発言しやすい雰囲気づくりや学習意欲を向上させる工夫をした。１・２学期に授業見学週間を実施し、授業改善につなげる機会を設けた。 ・学校生活アンケート(１・２学期末に実施)の結果… 学校生活が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」＝87.3% 授業理解度が「とても分	◎

	様々な活動を実施します。その一環として、名古屋大学進学対策講座「名大チャレンジサポート」を実施運営します。 【成果指標】 ○　国公立大学の現役合格者数について、卒業者数の４割 以上を目指します。 ○　難関国立１０大学と医学部の合格者数について、現浪 合わせて２０名以上を目指します。 ○　名古屋大学の合格者数について、現浪合わせて１３名 以上を目指します。 ○　３学年４月調査の第１志望校合格者が卒業者数の２割 以上を目指します。 ○　衛生看護科専攻科修了生の看護師国家試験での合格率１００％を目指します。 ＜保健部＞ 【活動指標】 ○　心身の健康について考え、生涯を通じて自らの健康を 適切に管理できる資質や能力を育てていきます。 ○　「桑高ほけんたより」を年間10回以上クラスルームで 配信して行きます。「学校保健ニュース」を定期的に掲示します。	かった」「まあまあ分かった」＝82.3% ・遅刻総数は148回（12月末現在、昨年度139回）。特定の生徒の欠席数・遅刻数が著しく多い。わずかな遅刻が多いので、余裕を持って登校するよう根気強く指導していく。 生徒指導案件＝7件 (原付無免許2・定員外乗車、暴力、けんか2、怠学) ・４年生卒業予定者＝5名 進学(専門学校):2、 就職：1、その他:2 ・三修制卒業予定者＝１名 進学(短大) 総合的な探究の時間の中でキャリア教育を３度実施し、「主体的な進路選択」につなげた。 生徒の有職率＝58.1%	◎ ◎

	○　生徒の心身の健康状態を把握し、問題の早期発見、早 期対応に取り組みます。特に必要な生徒に対しスクールカウンセラー等による面談を実施します。 ○　「いのちの教育」について講演会を年間１回実施しま す。 【成果指標】 ○　「桑高ほけんたより」を毎月配信、「学校保健ニュース」 を毎月掲示します。 ○　心身の健康に不安のある生徒に対し面談を一人１回以上実施する。スクールカウンセラー等の面談を定期的 に実施します。 ＜定時制　学習指導＞ 社会の変化に対応し、「主体的で深い学び」を実現するための教育活動に取り組みます。 【活動指標】 ○　個に応じた指導で「分かる授業」を目指します。 ○　１・２年において、国語・数学で習熟度別の授業を実施 し、基礎学力の定着と向上を図ります。 〇　日本語で授業をうけることが困難な外国籍生徒について、日常会話や学習言語の定着を図ります。 ○　総合的な探究の時間において、防災・環境・安全・健康・ 人権・進路等に関する講話を実施して、「生きる力」の醸成、生徒間の対話や気づきの促進、自己肯定感の涵養を図ります。 【成果指標】 ○　学校生活満足度アンケートで、生徒の回答のうち「とても楽しい」または「まあまあ楽しい」が８０％以上を目指します。 ○　授業満足度アンケートで、生徒の回答のうち「とても分かる」または「まあまあ分かる」が８０％以上を目指します。		

	＜定時制　生徒指導＞ 　基本的な生活習慣の確立を目指し、自律した生活が送れるように指導します。 【活動指標】 ○　無断遅刻や無断欠席をなくし、基本的な生活習慣を確 　立できるように指導します。 ○　誰もが気持ちよく挨拶できる雰囲気を作ります。 ○　校則や社会のルールを厳守するように指導します。 ○　交通安全指導を繰り返し行い、登下校での無事故を目 　指します。 【成果指標】 ○　無断遅刻・無断欠席件数の前年度より５０％減を目指し 　ます。 ○　生徒指導案件５件以下を目指します。 ＜定時制　進路指導＞ 　労働に対する意欲を持つとともに、主体的に進路選択できるように指導します。 【活動指標】 ○　自己の理解を深め、キャリア教育の充実を図ります。 ○　ハローワーク等の関係機関との連携を深め、未就労の 　生徒が就労できるように指導します。 ○　大学・専門学校等への進学指導を行います。 ○　卒業後の進路未定者に対して、継続的な指導を行いま 　す。 【成果指標】 ○　生徒の有職率７０％を目指します。 ○　卒業後の進路未定者０人を目指します。		

改善課題
【全日制】 〇普通科・理数科においては、授業やＳＳＨの諸活動・探究活動を通じて、生徒が自己の進路実現に向けてより主体的に学ぶように指導体制を工夫・改善することが課題である。 〇衛生看護科・衛生看護専攻科においては、看護師に不可欠である社会人基礎力の育成と看護師国家試験

合格に向けての知識・技能が定着するように指導体制を工夫・改善することが課題である。
〇生徒個々の様子を適切に把握し、生徒が不登校傾向に陥らないよう職員間・外部機関と連携するとともに担任等が１人で抱え込まないよう教育相談体制を維持・改善することが課題である。
【定時制】
〇多様な背景を抱えている生徒に対し、個に応じた指導を通じて基礎学力と基本的な生活習慣の定着を図るための指導体制を工夫・改善することが課題である。

（2）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】 「※」 ： 定期的に進捗を管理する取組 「◎」 ： 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
重点① 組織力ある学校づくり 重点② 開かれた学校づくり 重点③ ＩＣＴの活用 重点④ 危機管理体制の整備	＜総務部＞ 【活動指標】 ○　グループウェアの活用を呼びかけ、朝の打ち合わせや 会議時間の短縮に取り組みます。 ○　年間１回以上の防災訓練、防災ノートを活用した防災学 習に取り組みます。 ○　同僚と相談しながら仕事を進めていける、明るく開か れた職場づくりに率先して取り組みます。 ○　マネジメント委員会と連携をとりながら、学校行事の 見直しや業務内容の精選を図り、勤務時間の縮減・負担軽減・教育内容の充実につながるよう取り組みます。 【成果指標】 ○　朝の打ち合わせの全体連絡が８時２５分までに終わる ように努めます。 ○　総務部が関わる会議は１時間以内を目指します。 ○　職員満足度調査の人間関係の項目、「職員間の対話は 活発に行われているか」３．０以上、「相談しながら仕事を進めていく体制はできているか」の数値３．０以上を目指します。 ○職員満足度調査の職場環境の項目、「仕事が精査されてきたという実感があるか」２．５以上、「定時退校日に定時退校できたか」の数値３．０以上を目指します。	・グループウェアの活用により朝の打ち合わせは週１回とし、日々の連絡においては、シートを確認することで、時間の確保に努めた。職員会議は概ね１時間 程度に収まっている。 ・企画委員会を通して分掌間の連携が行えたので、学校運営はスムーズに進んだ。 ＜総務部＞＜ＡＫＰ＞合同 ・働き方改革の一環として、仕事の精査を目指した。 ①職員間の対話は活発に行われていますか。２．６ ②同僚と相談しながら仕事を進めていく体制はできていますか。２．６ ③仕事が精査されてきたという実感はありますか。２．０ ④　定時退校日に定時退校できましたか２．８ ・マネジメント委員会との連携をしっかりとり、仕事の精査と業務の多忙化解消に向けて、職員全体で話しあえる機会を作ることに取り組んでいくことが、今後の課題だと考える。	◎

	＜情報部＞ 　ＩＣＴを活用した学習環境の更なる整備を行うとともに、生徒・教職員向けに、授業や講習会等で情報教育を推進します。 ＜事務部＞ 【活動指標】 ○　生徒や教職員が安全で快適な学校生活を送れるよう、 　施設設備等の点検・改修を行います。 【成果指標】 ○　施設の保守管理、修繕の不備等に起因する人身事故件 　数０件	・GIGA スクールサポーター事業を活用して講習会を開催した ＜事務部＞ ・老朽化や不具合が発生した施設の改修等を速やかに行った。 ・人身事故件数　０件	◎
情報提供	【活動指標】 　学校の特色を生かした取組などを、学校ＨＰへの掲載や報道機関への情報提供などを通じて、保護者や地域へ向けた情報発信に努めます。 【成果指標】 ○　ＳＳＨ通信　５回 ○　ＳＳＨ活動報告　５回	・SSH の取組を本校 HP にて掲載し、保護者や地域へ向けて情報発信を行った。 　SSH 通信　５回 　SSH 活動報告　５回 ・課題研究発表会を公開し、報道機関へ情報提供を行った。　　２回	

	○　情報提供　２回		
働きやすい学校づくり	・　行事や取組の精選を進めます。 ・　総勤務時間の縮減に向け、年次有給休暇等を取得しやすい環境をつくります。 【活動指標】 ○　設定した日の定時に退校できた教職員の割合 ８２％以上　（昨年度実績：７８．２％） ○　予定通り休養日を実施できた部活動の割合 ９８％以上　（昨年度実績：９９％） ○　放課後に開催して６０分以内に終了した会議の割合 ８２％以上　（昨年度実績：８１．５％） 【成果指標】 ○　年３６０時間を超える時間外労働者数　０人 ○　月４５時間を超える時間外労働者の延べ人数　０人 ○　１人当たりの月平均時間外労働 ２１時間以下　（昨年度実績：２４．８時間） ○　１人当たりの年間休暇（年休）取得日数 １５日以上　（昨年度実績１２．７日）	※（令和６年１２月末時点） ・８４．２％ ・１００％ ・７６．９％ ・１７人 ・８６人 ・２４．６時間 ・１２．９日	※ ※ ※

改善課題
【全日制】 〇教職員の多忙解消に向けて、行事や各種取組・業務の実施方法の改善や、それらを精選することが課題である。 〇総勤務時間の縮減に向け、時間外労働時間の短縮や年次有給休暇等を取得しやすい環境を構築することが課題である。 【定時制】 〇職員数が少ない分、各々がいくつもの分掌を兼務しているので、業務の効率化・平準化することが課題

である。

6　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○目指す学校の姿の「桑員を支える」という視点から、桑員地区は半導体の生産が盛んであり台湾から学生を受け入れている。グローバルな視野を身に着けるためにも台湾と交流できるとよい。 ○若者は名古屋へ流出する傾向がある。看護職についても早期に楽な道に流れないよう長期で働ける人材育てていきたい。 ○教員は身近な職業なので目指さないかもしれないが、三重の教員を支えるためにも教師を目指すよう教職員から生徒に説明してほしい。 ○生徒教職員向けの人権講演会およびＰＴＡ主催の講演会において、ジェンダーギャップに向けてＰとＴが同じ方向性であったのは好事例だった。今後も連携していければと思う。 ○コロナの影響で人と関わる能力が落ちている。現場でリーダーシップがとれる人材の育成が望まれる。

7　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	【全日制】 ○普通科・理数科においては、授業やＳＳＨの諸活動・探究活動を通じて、生徒が自己の実現に向けてより主体的に学ぶよう指導体制の工夫・改善に取り組む。 ○衛生看護科・衛生看護専攻科においては、看護師に不可欠である社会人基礎力の育成と看護師国家試験合格に向けて知識・技能が定着するよう指導体制の工夫・改善に取り組む。 ○生徒個々の様子を適切に把握し、生徒が不登校傾向に陥らないよう職員間・外部機関と連携するとともに担任等が１人で抱え込まないよう教育相談体制の維持・改善に取り組む。 【定時制】 ○全職員が生徒の抱える背景について理解し、常に情報共有することで、個に応じたよりよい指導を目指す。
学校運営についての改善策	【全日制】 ○教職員の多忙解消に向けて、行事や各種取組・業務の実施方法の改善や、それらの精選に取り組む。 ○総勤務時間の縮減に向け、時間外労働時間の短縮や年次有給休暇等を取得しやすい環境の構築に努める。

	【定時制】 〇特定の職員に業務が集中しないように、業務の効率化・平準化を図っていく。